

手が荒れない除菌水増産

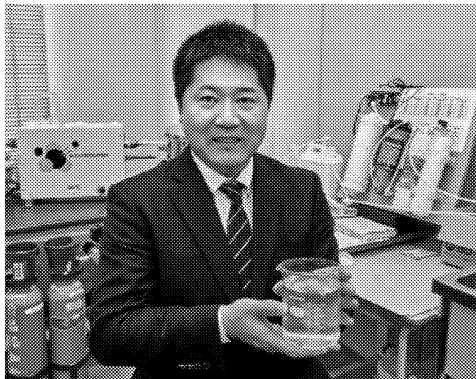
ジェ・スク、生産量4倍に

人工炭酸泉装置開発・販売のスタートアップ、ジェ・スク（岩手県八幡平市）は医療機関向けに、手が荒れない除菌水の生産量を従来の4倍に引き上げる。手指消毒用として一般的なエタノールを使った場合に比べ、肌の水分量を保てるのが特徴。新型コロナウイルス禍により医療従事者らの手指消毒の頻度が増えており、手荒れに悩む層の需要を開拓する。

増産する除菌水は、次た気泡にして混入した亜塩素酸水に炭酸ガス「スパークロール」60ミ（CO₂）を直径100ミ入りのスプレーボトル（200ナ）は10億分（税別900円）などの（1）びまで超微細化し商品として月産5000

炭酸ガスを超微細泡化

消毒後、肌の水分保つ



消毒後に手が荒れないため、需要が高まっている除菌水「スパークロール」を増産する（写真上）。除菌水増産に向け、試験的に設備を導入した製造委託先の工場で意気込みを語るジェ・スクの瀬川社長

エタノールは使用後に80と減少したのに対し、次亜塩素酸水は110、スパークロールは150と増えた。

だが、次亜塩素酸水は化学的に不安定で徐々に分解して殺菌・消毒効果が薄れるため、長期の保管に向かない。そこで同社は殺菌作用もある超微細泡に着目。炭酸ガスを超微細泡化して混入したところ、通常は生成から3〜4日で薄れる効果が最長で2年間持続したほ

ジェ・スク製の炭酸ガスを超微細泡化する装置のほか、次亜塩素酸水の製造装置などを導入し、年内に稼働させる予定だ。需要急増の背景には、ウイルスの変異型が次々に登場するなどコロナ禍が長期化し、医療従事者を中心に手指消毒の頻度が増加していることがあ

り、超微細泡の殺菌作用は、水中で破裂した際に発生する活性酸素が細菌などを破壊するとの説が有力」と説明。社内実験で肌の水分量が増えた

このため、ジェ・スクはスパークロールの原料に消毒後も肌が乾燥しない次亜塩素酸水を採用。社内の比較実験では、消毒液をつける前の肌の水分量を100とした場合、

ことも含めて超微細泡の殺菌・浸透効果が次亜塩素酸水の長所を補強している」とみる。

「次亜塩素酸水を使った除菌水は多いが、効果が長期間持続する製品は少ない」と瀬川社長。2023年6月期に医療関

連分野を中心に除菌水で1億円の売り上げを見込んでおり、その後は食肉加工関連などに販路を広げる。また米国など海外の需要も開拓し、5年後をめどに売上高10億円を目指す。

ジェ・スクは、ボイラ賞を受賞している。

1や電気温水器のシステム開発会社に勤めていた瀬川社長が退職して14年に設立。従来にはない高濃度の人工炭酸泉をつくり出す超微細泡技術が強みで、18年には東北地方発明表彰の中小企業庁長官賞を受賞している。